

ときをつなぐもの

文化財の紹介

『高遠石工が造った常夜燈』

市内に残る石造りの常夜燈じょうやとう（今でいう街灯）。その中に「信州高遠石工」と刻まれたものがあります。信州高遠とは、桜の名所として有名な長野県伊那市高遠町のことですが、どうして遠く離れた信州の石工の名前が、市内の常夜燈に刻まれているのでしょうか。

江戸時代、高遠藩は内藤氏が治めていましたが、検地により領地が減らされ、財政難でした。そこで農家の次男や三男には他国へ出稼ぎに行くよう呼び掛けました。高遠は石材を多く産出したため、農業の傍ら石の加工を行う者が多くいました。そこで彼らは石切りや細工の技術を身

に付けて他国へ赴き、高遠石工として活躍したのです。

さて、市内に10基ほどの常夜燈を製作した久保田宇吉も高遠出身の人です。常夜燈には製作年が刻まれており、寛政年間〜文化年間（1789年〜1817年）の紀年があります。市内に残る最も古いものは妻木町新町にあり、寛政11年（1799年）に久保田宇吉が製作しています。この常夜燈は高さが2m70cmを超える大きなもので、均整のとれた造りです。また「村中安全」という祈願と願主の名前も刻まれており、人々はさまざまな想いを込めてこの常夜燈の製作を依頼したことでしょう。

高遠石工―久保田宇吉が造った常夜燈は、妻木町のほかに下石町、曾木町、駄知町にも残っており、江戸時代から今日まで、町の人々の暮らしを見守っています。



▲寛政11年製作の常夜燈
(妻木町新町)



▲街道沿いの常夜燈
(妻木町山寺)

プラザイベントガイド

文化プラザ ☎55711

第12回 スプリング夢コンサート in TOKI

と き：平成24年3月18日(日) 午後1時30分開演
ところ：サンホール
入場料：無料

このコンサートは、市民が自ら企画し開催する手作りコンサートです。出演者は市内および近隣の市町で音楽活動をしている方々です。ぜひお越しください。

【第1部】親しみやすいクラシック 【第2部】サウンド・オブ・ミュージック
※第2部は、演奏会形式によるステージを参加者で作ります。

出演予定者

〔ピアノソロ〕市川晶子、渡邊越子
〔ピアノ連弾〕藤掛幹奈子・小川美佐緒
〔声楽〕渡辺理恵、森千穂(ピアノ伴奏)
〔重唱〕piccolo あんだんて(加藤千恵・野村弘子・林裕美・山口史子)
〔鍵盤ハーモニカ〕おんがくがかり(安藤律子・内田有美・長江美恵・渡邊越子)
〔フルート〕森川晶代、大林弓恵(ピアノ伴奏)

